

[花き部門]

2. 「岡山リンドウ2号」定植年の生育促進に有効なジベレリン処理時期

[要約]

「岡山リンドウ2号」の6月定植では、定植株の生育促進のために行うジベレリン処理は、定植2週間後が効果的である。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 高冷地研究室

[連絡先] 電話0867-66-2043

[分類] 情報

[背景・ねらい]

平成23年から普及に移している「岡山リンドウ2号」について、定植年の生育を促進するため、ジベレリン処理を、すでに普及している「No.47（早生オリジナルリンドウ）」と同じ定植5週間後までに行っているが、十分な生育促進効果が得られない事が生産現場での問題となっている。そこで、「岡山リンドウ2号」の生育促進に有効なジベレリン処理時期を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. シュート数は、ジベレリン処理すると無処理に比べて2.2～3.3本/株と多く、処理時期が早いほど多い傾向がある（表1、図1）。
2. 最長シュート長は、定植後2週間処理14.9cm>定植後3週間処理10.9cm>定植後4週間処理8.9cm>対照3.8cmとなり、ジベレリンの処理時期が早いほどシュートが長い。（表1、図1）。

[成果の活用面・留意点]

1. リンドウの生育促進を目的としたジベレリンの使用基準（処理濃度：100ppm、処理時期：定植直前または定植1～5週間後、使用方法：茎葉散布、使用回数：播種後は1回以内）を遵守する。
2. 定植2週間後より早いジベレリン処理の効果は不明である。

[具体的データ]

表1 ジベレリン処理時期が「岡山リンドウ2号」の生育に及ぼす影響

品種	ジベレリン 処理時期	シュート数 (本)	最長シュート長 (cm)
岡山リンドウ2号	定植2週間後	3.3	14.9
	定植3週間後	3.0	10.9
	定植4週間後	2.2	8.9
	無処理	1.7	3.8
No.47 (対照)	定植4週間後	5.4	21.9
	無処理	1.9	5.8

注) 播種：2012年3月初旬、定植：2012年6月6日、各区30株を処理

ジベレリン処理：GA100ppmを、6月22日(2週間後)、6月28日(3週間後)、
7月3日(4週間後)に、株当たり約2.5ml処理した。

生育調査：9月5日にシュート数と最長シュート長を調査した。



2週間後処理

3週間後処理

4週間後処理

図1. 「岡山リンドウ2号」のジベレリン処理後の生育

[その他]

研究課題名：岡山県の気候に適したオリジナルリンドウの新品種育成による連続出荷体系
の確立と栽培技術の改善

予算区分：県単

研究期間：2012～2016年度

研究担当者：森本泰史

関連情報等：1) 平成22年度試験研究主要成果、53-54

2) 平成21年度試験研究主要成果、61-62

3) 平成18年度試験研究主要成果、73-74